

湯沢市の湯沢翔北高校の生徒が講師となり、児童が二酸化炭素（CO₂）の排出量削減効果について学ぶワークショップ形式の特別授業が湯沢西小学校

で開かれた。6年生78人が生徒のアドバイスを受けながら、排出量を減らす行動を呼びかけるポスター作りに挑戦した。

CO₂削減 どう訴える

湯沢翔北高生 湯沢西小で特別授業

授業を進行したのは総合リジネス科の3年生6人。13日に6年生の3学級を訪れ、目を引きやすいキャッチコピーやレイアウト、文字サイズなどを解説し「見た人の視線をどう動かすかを意識しよう」などと呼びかけた。

児童は5人前後の班に分かれ、タブレット端末を使ってポスター制作に取り組んだ。色合い、掲載するイラストなどを相談し「食べ残しを減らそう」「マイバッグをしよう」といった文言を配置したポスターを40分ほどかけて仕上げた。

特別授業は10月23日にも開かれ、市などによる「ゼロカーボンシティ宣言」の目的、地球温暖化の現状をクイズを交えて学んだ。児童が作ったポスターは11月30日まで、市役所本庁舎1階市民ロビーに展示されている。湯沢西小の山本芯愛さんは

ポスター作りのこつ指導

「ゼロカーボンという言葉は知っていたが、特別授業を受けるまで具体的に何をすればいいのか分からなかった。節電や節水を心がけて生活したい」と話した。

湯沢翔北高の小松姫貴さんは「教えることの難しさを感じた。特別授業がゼロカーボンを身近な課題として捉え、地域の持続

可能性について考えるきっかけになればうれしい」と振り返った。

特別授業は昨年に続き2年目。湯沢翔北高は市の依頼を受けてゼロカーボンシティ宣言のロゴを作成した昨年11月、脱炭素の考え方の普及を図る取り組みを企画した。6年生が総合的な学習で持続可能な開発目標（SDGs）について学ぶ湯沢西小に外向き、地球温暖化について考える特別授業を実施した。（小林智彦）



CO₂の排出量削減を呼びかけるポスターのアイデアを考える児童たち